別記１

**作　　成　　要　　領**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 区分提出資料 | 機　　　器 | 論　　　文 |
| 表　紙 | ・Ａ４判縦長とし、テーマ、消防本部名、階級及び氏名を記入する。　※　テーマは、独自に考えた製品名等を用いるのではなく、作品の内容が概ね想像できる表現とすること（例：空気呼吸器面体の曇りを防止する加工法の考案について）。 |
| 概　要 | ・協会所定書式の「消防機器の改良概要（様式１）又は消防機器の開発概要（様式２）」を添付する。 | ・協会所定書式の「消防に関する論文の概要（様式３）」を添付する。 |
| 本　文 | ・頭書に「テーマ」を記入する（消防本部名、階級及び氏名は記入しない）。・図、表等を本文中に挿入しない。 |
| ・Ａ４判縦長１，０５０字詰（３５字×３０行）４枚程度で横書きとする（様式４参照）。また、字体は明朝体とし、文字の大きさは１２ポイントとする。 | ・Ａ４判縦長１，０５０字詰（３５字×３０行）８枚程度で横書きとする（様式４参照）。また、字体は明朝体とし、文字の大きさは１２ポイントとする。 |
| 図面・表・データ　等 | ・必ず添付し、大きさはＡ４判６枚以内とする（１枚の用紙に複数の図表の貼付も可）。 | ・必要により添付し、大きさはＡ４判６枚以内とする（１枚の用紙に複数の図表の貼付も可）。 |
| 写　真 | ・必要に応じて添付する。・Ａ４判の用紙（図表とあわせ６枚以内）に貼付し、番号、説明等を付する。（１枚の用紙に複数の貼付も可）。・デジタルカメラで撮影したものを普通紙に印刷したものでも可 |
| 留意事項 | ・表紙を除き、作品中（写真等を含む。）には消防本部名、署所名、地域、所在地等は実名を使用せず、適宜記号等を使用する。・参考とした文献がある場合は、本文末等に明記する。・本文中にはページを付す。・文字等は、黒一色とする（鉛筆書きは認めない）。・図面、表及び写真用貼付用紙には、周囲２.５ｃｍ以上の余白をとる。・編冊は、表紙、概要、本文、図面等及び写真の順とし、左綴じとする。 |

別記２

**地区支部長から協会への推薦作品算定方式**

　　地区支部長は、当該地区支部内の消防長から提出された作品を、地区支部選考委員会で適宜審査し、次の算定方式により得た数の範囲内で推薦するものとする。

１　用語の定義

(1)　作品総数は、当該地区支部内の消防長から提出された作品数とする。

(2)　規定数は、１０作品とする。

(3)　加算数は、規定数に加算する数とし、作品総数から規定数を減じた数に、0.2（基準割合）を乗じた数（小数点以下は切り捨て）とする。

(4)　地区支部長推薦数は、規定数に加算数を加えたものとする。

２　算定方式

　　地区支部長推薦数は、機器の部、論文の部、それぞれに算定を行う。

(1)　加算数＝（作品総数－１０（規定数） ）×0.2　（小数点以下は切り捨て）

(2)　地区支部長推薦数＝１０（規定数）＋加算数

別記３

**選考要領**

１　募集区分毎の評価項目は、次に掲げるとおりとする。

(1)　「消防機器の改良及び開発」に係る評価項目

ア　消防活動時等における利便性が大きく向上するか。

イ　性能及び安全性が高いか。

ウ　費用対効果が大きく、実現の可能性が高いか。

エ　独創性が高いか。

オ　論旨が明確であるか。

(2)　「消防に関する論文」に係る評価項目

　　ア　実用又は採用価値が高いか。

　　イ　消防行政を推進させる等発展性があるか。

　　ウ　独創性が高いか。

　　エ　調査、研究及び分析が充分に行われているか。

　　オ　論旨が明確であるか。

２　選考時の留意事項については次のとおりとする。

1. 前1の各評価項目に対して次に掲げる基準により、「優れている（10～９）」「やや優れている（８～７）」「普通（６～５）」「やや劣る（４～３）」「劣る（２～１）」の五段階評価を行い、５項目の総合評価の得点により選考を行う。
2. 募集区分に応じ、別添１「機器審査採点表」又は別添２「論文審査採点表」を用いて採点を行う。
3. 選考時の採点において、２０点以下の評価点数を採点された作品は、会長賞対象とするか否かについて、選考委員会において協議するものとする。
4. 同点時の取り扱いについては、採点時における評価項目の優先順（前１募集区分毎の評価項目アからオの記載順）とする。また、評価項目の優先順においても同点の場合は、選考委員会の決するところによるものとする。
5. 審査員は、作品の選考時、規程第４条第３項に掲げる応募できないものであると判断した場合は、評価外とし採点はしないものとする。

様式１

**消防機器の改良概要**

|  |  |
| --- | --- |
| テーマ |  |
| 改良内容(既存機器を明記すること) |  |
| 改良前の問題点 |  |
| 改良後の効果 |  |

様式２

**消防機器の開発概要**

|  |  |
| --- | --- |
| テーマ |  |
| 開発内容 |  |
| 開発の効果 |  |

様式３

**消防に関する論文の概要**

|  |  |
| --- | --- |
| テーマ |  |
| 要旨 |  |
| 効果 |  |

様式４

**本文**

|  |
| --- |
| ３５文字「○○○○の改良（開発）について」○○○○○○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○○○○○○○○○○○○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○○○○○○・・・・ ・ ・３０行・・・・・・○○○○○○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○○○○○○○○○○○○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・○○○○○○○○ページ |

（備考）この用紙の大きさは、日本工業規格Ａ４判とすること。

別表１

**会長賞の区分**

|  |  |
| --- | --- |
| 賞 区 分 | 作 品 数 |
| 最優秀賞 | 機器 | 　２ | １ |
| 論文 | １ |
|
| 秀　　賞 | 機器 | 　７ | ６ |
| 論文 | １ |
| 優　　賞 | 機器 | １１ | ９ |
| 論文 | ２ |
| 合　　計 | 機器 | ２０ | １６ |
| 論文 | ４ |

（注）会長賞は、原則として上記のとおりとするが、選考委員会の結果によっては、

若干の変更を行うことがある。

別表２

**選考委員会委員及び選考区分**

|  |  |
| --- | --- |
| 機器の部 | 会長、北海道地区支部長（救急委員会委員長）、関東地区支部長、東海地区支部長、近畿地区支部長、財政委員会委員長、財政委員会副委員長（２）、技術委員会副委員長（２）、予防委員会委員長、予防委員会副委員長（２）、警防防災委員会委員長、警防防災委員会副委員長（２）、危険物委員会副委員長（２） |
| 論文の部 | 東北地区支部長（救急委員会副委員長）、東近畿地区支部長（総務委員会副委員長）、中国地区支部長、四国地区支部長、九州地区支部長、総務委員会委員長、総務委員会副委員長、技術委員会委員長、救急委員会副委員長、危険物委員会委員長 |

別添１

**機　器　審　査　採　点　表**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 作品番号 |  | 委員名 |  |
| 作品名 |  |
|  | 評価項目 | 配点 | 評　価　基　準　値 | 評価点数 |
| 優れている | やや優れている | 普　通 | やや劣る | 劣る | 評　　価　　外 |
|  | １ | 消防活動時等における利便性が大きく向上する | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| ２ | 性能及び安全性が高い | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| ３ | 費用対効果が大きく実現の可能性が高い | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| ４ | 独創性が高い | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| ５ | 論旨が明確である | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| 合計 | 50 | 評　価　点　数　合　計 |  |
| 備考 | 評価外の理由（　盗作 ・ 代作 ・ 過去の会長賞受賞作品　） |

（注１）　評価点数は、該当する評価基準欄に○を付し、その範囲内において点数を記入する。

 （注２）　評価点数合計が２０点以下になった場合については、評価が低い理由を備考欄に記入する。

 （注３）　「評価外」に○を付した場合には、その理由を選択し○を付す。

別添２

**論　文　審　査　採　点　表**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 作品番号 |  | 委員名 |  |
| 作品名 |  |
|  | 評価項目 | 配点 | 評　価　基　準　値 | 評価点数 |
| 優れている | やや優れている | 普　通 | やや劣る | 劣る | 評　　価　　外 |
|  | １ | 実用性又は採用価値が高い | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| ２ | 消防行政を推進させる等発展性がある | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| ３ | 独創性が高い | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| ４ | 調査、研究及び分析が充分に行われている | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| ５ | 論旨が明確である | 10 | １０～９ | ８～７ | ６～５ | ４～３ | ２～１ |  |
| 合計 | 50 | 評　価　点　数　合　計 |  |
| 備考 | 評価外の理由（　盗作 ・ 代作 ・ 過去の会長賞受賞作品　） |

（注１）　評価点数は、該当する評価基準欄に○を付し、その範囲内において点数を記入する。

 （注２）　評価点数合計が２０点以下になった場合については、評価が低い理由を備考欄に記入する。

 （注３）　「評価外」に○を付した場合には、その理由を選択し○を付すものとする。